

カエルとガマの１０月マザー対談

カエル・・・聖フランシスコ教会一階大聖堂広場回廊で、１０月９日から２５日まで、沖守弘さんの「マザー・テレサ生誕１００年記念写真展」があります。マザーは、１９１０年８月２６日、マケドニア地方のスコピエで誕生なさっています。

ガマ・・・アシジでのテーマは「愛の業は平和の業」ですね。生誕１００年を記念し、日本各地でも「マザー・テレサは生きている」などのテーマで、マザーとその愛のメッセージを思い出しています。

カエル・・・女子パウロ会の映画祭（東京）の企画は素晴らしいですね。

ガマ・・・はい、【素晴らしいことを神さまのために】【マザー・テレサとその世界】【母なることの由来】【マザー・テレサの遺言】【母なる人の言葉】・・・など、七本のドキュメンタリー、一挙上映でしたね。

カエル・・・シスター渡辺和子も思い出を語っておられましたね。「１９８４年、マザーが広島から岡山に来られた時、写真のフラッシュにいつも笑顔で振り返られました。愛想がいい方と思っていたら、後で、マザーがボツンと言われました。『わたしは神さまと約束をしています。写真のフラッシュが一つ焚かれる時、今召された人を天国に受け入れてくださるようにと。』」（８/１３キリスト教放送局 FEBC 特別番組）

カエル・・・板倉恵二神父さまは マザー・テレサの体温 を書いておられます。弱って死にそうな子を、マザーは抱きしめ、語りかけ、抱き続けて言われたそうです。『食事や薬がだめでも、わたしの体温をこの子に伝えたいのです』と。（聖書と典礼 ８/２２）

ガマ・・・子どもたちの飢餓や子どもたちへの虐待が大きな問題になっている現代世界への、愛のメッセージですね。

カエル・・・教皇さまもメッセージを出されました。『福者カルカッタのテレサは＜キリスト者の徳の模範＞で隣人への真の愛が、神を知り神と共にあるための扉を開くことを世界に示した』と指摘され、『マザー・テレサの生誕１００年を祝うことは、教会と世界にとって喜びのうちに神に感謝をささげる機会になります。生前のマザー・テレサは計り知れないたまものでしたが、今も、彼女の霊的子どもたちであるあなたがたの愛にあふれたたゆまない働きを通して、そうあり続けています。』（【神の愛の宣教者会へのメッセージ】より）

ガマ・・・沖さんは、マザーの本を何冊も出しておられますね。

カエル・・・はい、【マザー・テレサ 愛は限りなく】（１９９７ 小学館）のあとがきでは『私のレンズは、神を賛美し、神に仕えようと、限らない愛を運んでいるマザーとシスターたちの世界を映し続けた。それはまた美しく、喜びに満ちた世界・・・』と述べられ、「こんなにも人は人を愛している」と感動しておられます。

ガマ・・・生誕１００年を記念して出されたのが【マザー・テレサ あふれる愛】（２０１０ 講談社 青い鳥文庫）ですね。マザーがどれほど実行力とユーモアにあふれた方であったか、生き生きとしたタッチで書かれています。たとえば『世界平和のためにすぐやることは？』に答えて『今すぐ家に帰って、家族を大切にしてください。』ノーベル平和賞受賞後のインタビューで、「愛は身近なところから・・・」と説かれたエピソードです。

カエル・・・沖さんのお母さまはひそかにカトリック信者になられ、息子さんのために祈り続けられたということです。その守弘さんも、１０月２２日、アシジで受洗されます。マザー１００歳のお誕生年に素晴らしいおくりものです。

ガマ・・・「すべてのことは祈りから始まります」と、マザー-の手にはいつもロザリオがありました。美しく、印象深いお姿でした。

カエル・・・カエルも、主に立ち返るため、聖ドミニコからロザリオを受けた聖フランシスコの街アシジで、毎日、恩人、知人、友人方のため、そして貧しい人々のためロザリオ散歩を続けています。

ガマ・・・１０月はロザリオの月！ ロザリオを手に、マリアさまとマザーの執り成しを願いながら、深く、静かに、たくましく過ごしましょう。

カエルとガマ・・・アシジでの写真展によって、マザーのメッセージがますます広く深く、人々の心に伝わって行きますように。